



湛水直播の苗立率はこの3年間の平均で約50%です。良い人と悪い人の差が大きいようです。

3回目の入水量
水深5cm程度（芽が隠れる位）

ここで苗立・ヒエの調査実施

- ① 180本以上/m²で、ヒエの葉数が大きくなれば、入水後に水持ちを確認して、一発処理剤を散布。
- ② 180本以下/m²であれば、体系処理が無難な雑草処理方法です。

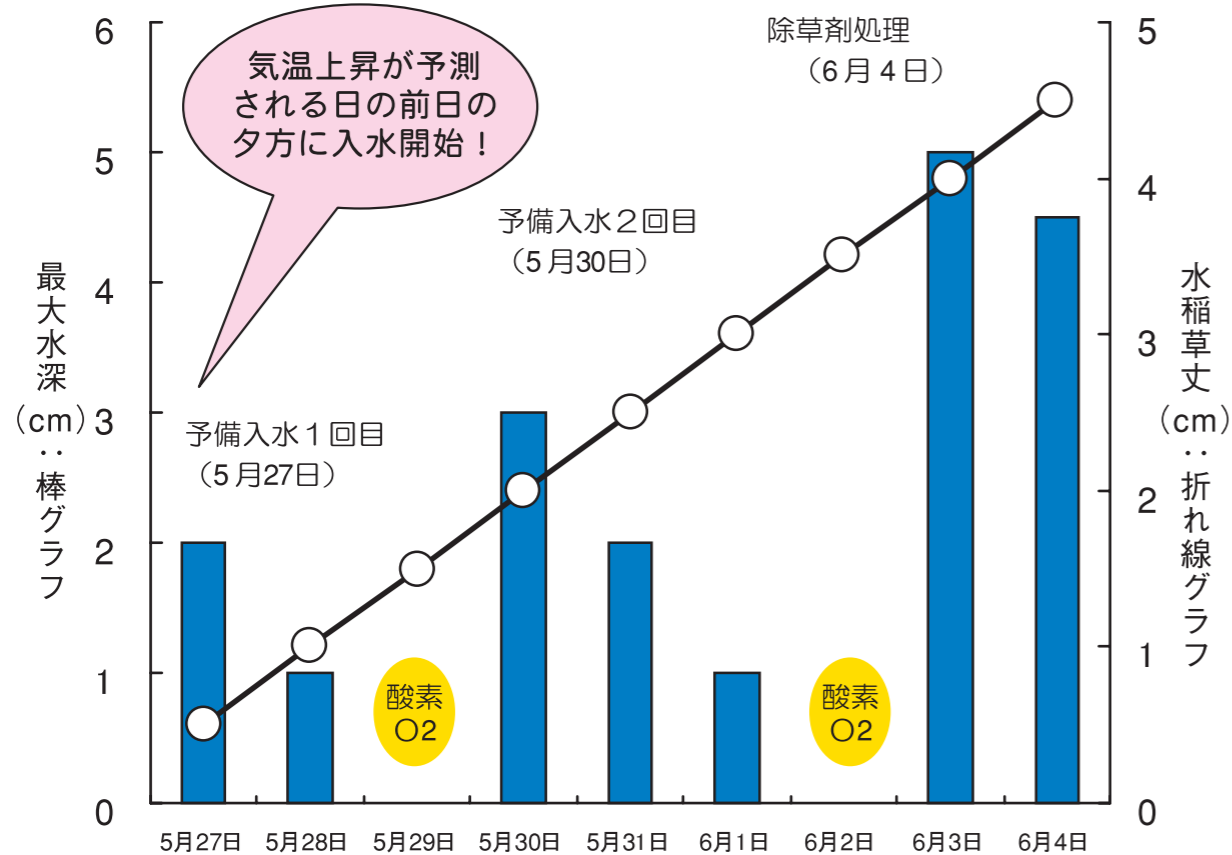


図-10 3回の予備入水処理と初期生育（理想型）

POINT 3 再入水の注意事項（再確認!!）

- (1) 積算温度の目安を参考にしましょう。
- (2) 「焦らない。我慢する。相談する。」が3原則です。
- (3) ほ場巡回時には必ず、土をめくり根と芽の伸長を観察しましょう。
- (4) 苗立ちや生育進捗が思わしくない場合は、一発処理の除草剤の使用をあきらめ、体系処理の方法を選ぼう。
- (5) この期間に降雨があった場合は、入水量や回数を調整しましょう。（酸素不足を防ぐ）

$$\text{予測式} = \text{積算} \left(\frac{\text{日最高気温} + \text{日最低気温}}{2} - 6 \right)$$

播種翌日からの積算が「大地の星：カルパーなし」の場合、90℃を超えた日が再入水の目安となります。
※ 他の品種はこの基準は異なります。

挑戦が続く作業機の工夫

湛水直播

南 幌



散播のタイプ。代掻き後、落水して播種。

全道各地



散播のタイプ。種子がささり込む必要があるため、カルパー粉衣は必須。

岩見沢



田植機との複合機。移植部分と直播部分が交換できるタイプ。

岩見沢



点播のタイプ。北海道では播種量が多いので、作業性が低くなってしまふ。

乾田直播

岩見沢



市販のパワーハローに麦の播種機をシーダーヒッチで搭載。深播きになるのが弱点。

岩見沢



市販のパワーハローに同社のシーダーを搭載しているタイプ。期待の新機種であるが、施肥ホッパーはない。

岩見沢



市販のパワーハローに麦の播種機をシーダーヒッチで搭載。深播きになるのが弱点。

南 幌



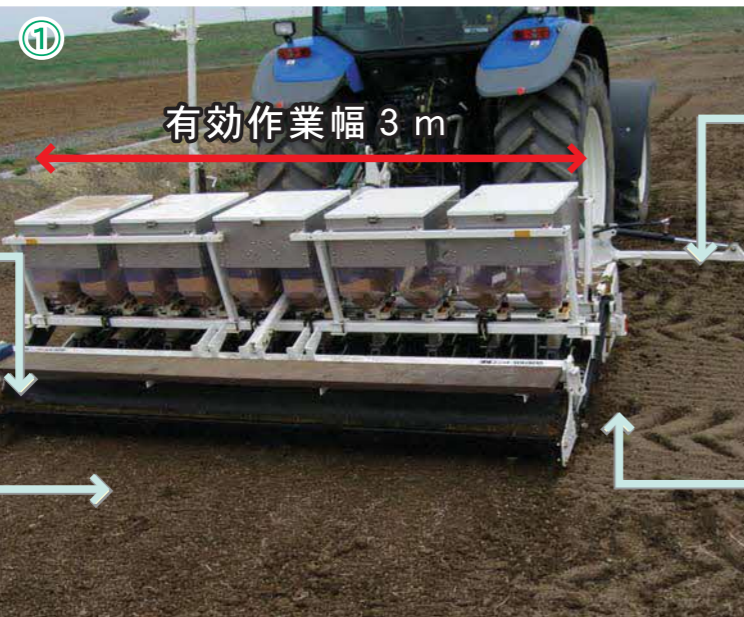
散播のタイプ。播種前の耕起と、播種後の鎮圧が必要。

播種精度を高めるコツ (乾田直播)

POINT 1 乾田直播 (トラクタ直装式・耕起施肥播種機)

- (1) いわみざわ地域ではバーチカルハローシーダーの3m幅を基本とします。
- (2) トラクタは90馬力以上が必要です。ホイール型・クローラ型の両方が装着可能です。
- (3) 播種後に鎮圧作業が必要です。

Point 1
この鎮圧ローラーの鎮圧力を期待しない！高低差がなくなる程度です。



Point 3
マーカは直進するために重要な役割を持つ。

Point 2
播種深度を確認しながら作業機を最高の状態に調整する。

Point 4
ホイール型はラジアルタイヤ装着で旋回後がきれいで、苗立ちムラを減らすことができる。

Point 5
オペレーターはモニターに写る速度・ロアリンク角度・回転数などの情報を参考にし、最高の播種状態になるように作業機を調整・運転。

作業可能速度 4 ~ 12km/h
畝幅 12.5 ~ 30.0cm

Point 7
ホッパーは大容量(別注)で補充なしで50~200a播種が可能。



Point 8
バーチカルハローの碎土はあまり当てにしない！深くすると大きい土塊が上にくるので注意する。

Point 6
すべての畝が浅く均一に播種されるよう調整する。(作業機の自重による中心部が深くなる現象)

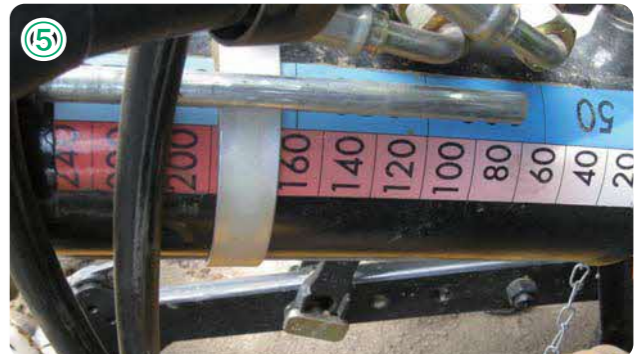


Point 9
は種後、種子・肥料の筋が見える程度が良好。

重要なポイント
耕起深2cm程度、播種深度を5~10mmに調整、作業速度4~12km/h



ポイント②での測定量から、各ホッパーごとにダイヤル調整をし、播種・施肥量を決める。



トップリンクはゲージがあると調整しやすい。トラクタにロアリンクの角度が表示されるタイプも調整しやすい。



20回手で回し実測

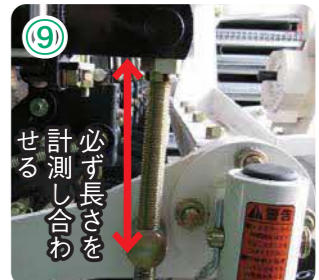


作業機を上昇させ、付属のハンドルを回し、落ちる種子と肥料の重量を測定し調整。カップと測りが必要。

後方の鎮圧ローラーで播種機の駆動力をとっているの、チェーンボックスのギヤ比でも播種量を変更できる。



油圧取り出しは2系統以上必要。



作業機の中央と左右にあるリフトロッド3本で播種深度を微調整する。

土壤乾燥が特に良いとき、播種機の均平板に土を抱え込む場合があります。その場合は播種前にも鎮圧を行います。



播種直後は、種子と肥料の3割程度が見える程度が、ちょうどよい播種深度です。ケンブリッジローラーは自重が重く、複数の鎮圧輪で構成されるタイプが効果的です。



バーチカルハローは均平を乱さずに播種が可能。耕起深は2cm程度。



播種後の鎮圧は、2回かけることを基本にします。夕方など湿度が高まると、土がへばりつき播種深度を乱します。(播種直後の降雨に注意し、作業計画を立てましょう!)